

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	66-0225
施設名	さゆり保育園
施設所在地	葛飾区青戸 1 - 1 - 1
法人名	社会福祉法人 さゆり保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

音楽と身体表現

<テーマの設定理由>

(テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など)
園の特色としてヒップホップダンス、リトミックを取り入れている。
音楽に合わせて自由に体を動かすことにより子どもの感性や
表現する楽しさをより引き出すため。

2. 活動スケジュール

1年間を通してヒップホップダンス、リトミックともに毎週1回実施。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

(活動のためにどのような環境を設定したか、準備した素材や道具)
ヒップホップダンスは数々のダンス大会で受賞歴のある講師を、また、リトミックは、支援学級でリトミック指導を行っているプロフルート奏者を講師として迎えた。環境面は、子どもたちがのびのびと保育室で身体を動かせるよう、部屋に出来るだけ余計な物は置かない、実施前には床に物が落ちていなか等、念入りに清掃し安全面、衛生面に配慮した。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

ヒップホップダンスは、3歳児から5歳児を対象に毎週1回、リトミックは1歳児から5歳児を対象に毎週1回指導を行った。ヒップホップダンスは年に2回「ヒップホップ参観」を設け、園児の保護者や家族に活動の成果を披露した。リトミックについては、12月の遊戯会の遊戯の中にリトミックの要素を取り入れ保護者や家族に披露した。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

ヒップホップダンスは、上手い下手ではなく、それぞれの表現を大切に指導した。「先生、ここはどうやって手を動かすの？」等と聞く子もいたが、講師の手本を自分なりに感じたままを模倣して表現する事を尊重した。リトミックは、1歳児や2歳児の子どもも音の大小や高低、速度を聞き分け、動物や自然物、乗り物等、全身を使って豊かに表現することが出来ていた。3歳児から5歳児の幼児は、ピアノの伴奏に合わせ、自ら考えた動きを表現し「何の動きだと思う？」と友だちの表現したものを当てっこしたり、「この音の時はこんな動きをしようよ」とみんなで動きを合わせたりして楽しんでいた。また、音の大小や高低、速度によって「何か」を表現することが出来ることに気づき、そのことを言葉にする子もいた。



子が
可能



して
なも



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

ヒップホップは、初めは恥ずかしがって踊らない子や、どうやって身体を動かしたら良いか戸惑っていた子どもも回を重ねるうちに年度の終わりにはリズムに合わせて自然と自分なりの表現をすることが出来ていた。リトミックは、当初1歳児、2歳児に出来るか心配していたが、実際に行ってみると、音の高低や速度を聞き分け全身を使って様々な物や事象を表現することが出来ていた。年度の終わりになると中にはギャロップやスキップを出来る子もあり、子どもたちの身体能力の高さと体幹の強さは、講師、保育者にとって新たな発見となった。